

## 身近な樹木調べから植物群系を考える

A Method of Observing Familiar Trees and Considering Plant Formation.

生物科 浅羽 宏

### <要旨>

生物の生態分野の学習は、自然体験が少ない都会の高校生には、不得意な領域が多く苦手意識も強い。そこで、野外での植物を実際に観察することをきっかけにして、生態系への理解を深められるのではないかと考え、近くの公園に出かけて樹木を調べるといった課題を設定した。準備を含めて5年間ほどの実践を行い、若干の成果を得、授業に取り入れる方法を考察することができた。

<キーワード> 都市の樹木、公園の樹種、照葉樹林、樹木調べ、常緑樹、高木

### はじめに

現行生物Ⅱの生態分野では、日本と世界の植生とそれらの分布について学ぶ。この分野での学習は、資料集やスライド、ビデオなどを用いての授業が展開されるが、実際に生育している植物を観察して学習するという授業は、なかなかやりにくい面が多い。特に、都会地の高校では、野外観察の機会はさきわめて少なく、実地の観察を行うことは何かと難しい点が多いと思われる。

今回、生徒を主体とする身近な野外観察を導入し、生態分野での授業の実践を通じ、授業への取込みに関しても一定の成果を得ることができたのでここに報告する。

### [1] 課題設定の理由

生物の教科の特性から、動植物の名称を取り扱うことはさきわめて多いが、昨今の都会の高校生達は、生態系とか自然保護とかの単語自体はよく頭に入っているが、その実体の把握に関しては、かなり心もとないようである。本校は、大学の跡地に設置されたという経緯もあり、校舎敷地内に種類、量ともに多くの樹木が生育している。十数年前から、これらの樹木を授業の導入や、実験観察等にさまざまに取り入れ、生徒達の興味や関心を引き起こす方策を試みてきた。たとえば、ただ単に何種類かの樹木の名称と、それらにまつわる雑多な話題を説明して学校内を一周するだけで、かなりの樹木好きな生徒が育つことがわかり、また、これを契機として生態学や植物学の方面に進む卒業生もあった。

生徒達に学校内で樹木の説明をするのはたやすいが、それで本当に汎用性と発展性のある基礎を学ぶことができるか、一歩本物の野外に出たら分からない、というのでは困る。実際の観察により視野を広げ、観察眼を養ってもらいたいものである。ところが、高校生にとって樹

木を学ぶために種の同定を行うことは、かなりの困難を伴う。そこで、種名の分かるところで樹木名を知り、それらの特徴を学び、その経験を野外や学校内に応用することができないかと考えた。結果的には、植物園や樹木園で樹木を学ぶという従来の方法から少しも出ていないのではあるが、そこにいたるアプローチの1つとして以下のような方法を考えて実践した。

### [2] 課題設定の方法

学校外の施設や公園等を利用して、まず樹木の名称を学び、そこから生態系の構成樹種の特徴を把握するために、次のページのようなプリントを生徒に配布した。

単に、樹木のラベルを公園で調べてその結果をレポートにまとめるだけでも、新しい発見がいろいろあるはずである。今回の課題では、さらに一歩進んで照葉樹林の樹木のもつ特徴をも合わせて考えるために、夏休み等を利用して、多少の時間を要するレポートとして課題を設定した。

### [3] 結果の集計

以上のような方法により、身近な公園や植物園等に出かけて樹木を調べ、その結果をまとめるレポートを平成12年から15年までの4年間、3年生の生物I B選択者(理系と文系)に課した。提出されたすべてのレポートから、観察場所として多い地点を取り出し、まとめたものが表1である。本校の生徒達は、上記の推薦した公園等に行く生徒が多いが、それ以外でも、関東近辺の多くの場所に出かけて樹木観察を行い、その結果をレポートとして提出した。

生物 I B 課題 照葉樹林の樹木の調査

2002. 6 月

2 学期に学習予定の生態分野に、世界と日本の植物の生態分布という項目がある。学習には樹木の理解が不可欠であるが、しっかり観察する機会が少なく、高校生が不得意とする分野である。そこで、各自で身近な環境の樹木調査を行い、生態理解への第 1 歩を踏み出すことにしたい。ただし、樹種の判定は容易でないので、名前の分かる樹木に関して調べよう。

〔方法〕

住んでいる地域の公園や緑地等に出かけ、高さ 10 m を越すような樹木（高木）を最低 10 種類選びその名称を調べる。スケッチまたは写真で記録をとり、証拠となる樹木の一部（落葉、落ちていた果実や樹皮）を採取する。

〔注意点〕

- ① 日本を含む東アジア・中国などを原産とする樹木を調べる。こと。（ヒマラヤスギ、タイサンボク、イチヨウなど、明らかに外国産で、日本に輸入して植樹されたと思われるものは除く。）
- ② その公園等に複数みられるものを選ぶこと。（特別な銘木、移植樹木などを除く）
- ③ あなたが観察して、その樹木を自分なりに区別する特徴となる点を 3 つほど記述すること。（図鑑等を参考にするのはよいが、それをすべて書き写すことは意味がない。）
- ④ 学校内を散策し、あなたが調べた樹木が校内のどこに生育しているか、または生育していないかをできるだけ調べて、それも一緒にまとめる。

〔提出〕

2002 年 10 月 3 日（木）→成績は 2 学期末の点数に加算します。これから、夏休み～9 月にかけて観察し、レポートを仕上げてください。

表 1 主な観察場所

観察場所	所在地	45 期	46 期	47 期	48 期	合計
自然教育園	東京都目黒区	31	12	5	13	61
日比谷公園	東京都千代田区	31	12	5	10	58
小石川植物園	東京都文京区	2	9	2	11	24
北の丸公園	東京都千代田区		8	1	2	11
新宿御苑	東京都新宿区		3	4	2	9
代々木公園	東京都渋谷区		1	5		6
駒沢公園	東京都世田谷区	1		4		5
昭和記念公園	東京都立川市	1	3		1	5
井之頭公園	東京都武蔵野市	3				3
北大校内	北海道札幌市		2			2
かしの木山自然公園	東京都町田市			2		2
子供の国	神奈川県川崎市			2		2
小金井公園	東京都小金井市		1	1		2
城北中央公園	東京都板橋区		1	1		2
砧公園	東京都世田谷区			1	1	2
合計		69	52	33	40	194

次に、各観察場所ごとに、どのような樹木が調べられているかを各々のレポートごとに取り出し、樹木名を集計した。

たとえば、この調査初年度の 45 期生の生徒のレポートでは調査樹木数が延べ 854 本となり、そのうち出現頻度の高い樹木を、多い順に並べたものが表 2 である。こ

名称	最寄り駅	入場料金	特徴など
日比谷公園	JR 有楽町、日比谷線日比谷他	無料	首都を代表する都立公園で、四季それぞれに花が咲き、各種の樹木も多く人通りも多い。GA の設定あり。交通至便で都心の割には勉強にも向く。
国立自然教育園	JR 目黒、徒歩 15 分	高校生 60 円、月曜休園	多くの樹木に名札がつけてあり食物連鎖や遷移など重要な生態学上の概念が園内のパネルによって楽しく実地に学習できる。都心部にこんな閑静な一角があるかと驚く。深い森の中には真夏でも涼風が吹く。
北の丸公園	東西線・半蔵門線、都営新宿線九段下	無料	皇居の一隅にあり、深い森に囲まれている。池もあり夏でも涼しく、日中は静かで観察によい。GA の設定あり。武道館近くでイベント時は混雑する。
新宿御苑	丸の内線新宿御苑前	高校生 200 円、月曜休園	広々とした苑内に英・仏・日本式の見事な庭園がある。野鳥も多く、苑内の温室に入れば、熱帯地域の植物にもお目にかかれる。GA の設定あり。（GA：グリーンアドベンチャー）
東大小石川植物園	丸の内線茗荷谷	大人 330 円	東京大学附属植物園だけに充実し、樹木・草本ともに多数の学名・和名の名札がつけられ勉強が進むが、圧倒される。照葉樹はもちろん外国産樹種も多く、植物学や林学志望者向き。

れをみると、クスノキ(図1)、ケヤキ(図2)スダジイ(図3)、シラカシ(図4)、エノキ、ムクノキなど、関東地方でお馴染みの樹木が上位に並んでいる。

この中で、常緑樹はクスノキ、スダジイ、シラカシ、マテバシイの4種で、これらは代表的な照葉樹である。

表2 多くみられた樹木ベスト10 (45期生)

順位	樹木名	出現数	出現比 (854本中の%)
1	クスノキ	65	7.6
2	ケヤキ	61	7.1
3	スダジイ	56	6.6
4	シラカシ	41	4.8
5	エノキ	37	4.3
6	ムクノキ	36	4.2
7	コブシ	35	4.1
8	イロハカエデ	32	3.7
9	マテバシイ	31	3.6
10	ソメイヨシノ	28	3.3

同様に、46期生の生徒のレポートを集計した結果が表3である。ここでは、1位から14位までをあげている。表2と同じような樹木が顔をそろえているが、この年はイチヨウが上位にランクしている。この14種のうち、常緑樹はクスノキ、シラカシ、スダジイ、クロマツ、マテバシイの5種である。

表3 多くみられた樹木ベスト14 (46期生)

順位	樹木名	出現数	出現比 (561本中の%)
1	ケヤキ	47	8.4
2	クスノキ	38	6.8
3	イチヨウ	32	5.7
4	シラカシ	26	4.6
5	エノキ	23	4.1
6	スダジイ	23	4.1
7	コナラ	18	3.2
8	ソメイヨシノ	14	2.5
9	イロハカエデ	13	2.3
10	クヌギ	13	2.3
11	クロマツ	13	2.3
12	コブシ	13	2.3
13	イイギリ	12	2.1
14	マテバシイ	12	2.1

同様に、47期生、48期生の集計結果をまとめたものが、表4と表5である。

次に、この4年間の生徒レポートで調べられた樹種をすべて集計し、これを出現頻度の高いものから順に並べてみたのが、表6である。年ごとのレポートに見られる樹木の延べ種類数は多く、主要なものだけでも100種類ほどにおよび、すべてをあげればその倍近くになりそうである。

表4 多くみられた樹木ベスト12 (47期生)

順位	樹木名	出現数	出現比 (638本中の%)
1	ケヤキ	35	5.5
2	クスノキ	30	4.7
3	シラカシ	26	4.1
3	スダジイ	26	4.1
3	ソメイヨシノ	26	4.1
6	コナラ	20	3.1
7	コブシ	18	2.8
8	イロハモミジ	16	2.5
9	マテバシイ	15	2.4
10	ムクノキ	14	2.2
10	ヤマザクラ	14	2.2
12	クヌギ	12	1.9
12	クロマツ	12	1.9

表5 多くみられた樹木ベスト13 (48期生)

順位	樹木名	出現数	出現比 (466本中の%)
1	スダジイ	32	6.9
2	クスノキ	31	6.7
3	シラカシ	28	6.0
4	ケヤキ	18	3.9
4	タブノキ	18	3.9
6	マテバシイ	16	3.4
7	アカガシ	15	3.2
8	シロダモ	12	2.6
8	モッコク	12	2.6
10	モチノキ	11	2.4
11	エノキ	10	2.1
11	コナラ	10	2.1
13	ツクバネガシ	9	1.9

表6 多くみられた樹木ベスト20の集計  
(平成12～15年の4年間分)

	常 緑 樹	45期	46期	47期	48期	合 計
クスノキ	○	65	38	30	31	164
ケヤキ		61	47	35	18	161
スダジイ	○	56	23	26	32	137
シラカシ	○	41	26	26	28	121
エノキ		37	23	11	10	81
ソメイヨシノ		28	14	26	6	74
マテバシイ	○	31	12	15	16	74
コブシ		35	13	18	7	73
イチョウ		32	32	5	3	72
コナラ		19	18	20	10	67
イロハモミジ		32	13	16	2	63
ムクノキ		36	6	14	7	63
タブノキ	○	18	10	10	18	56
ミズキ		24	11	10	2	47
クヌギ		13	13	12	6	44
ヒノキ	○	24	8	8	2	42
クロマツ	○	12	13	12	4	41
イイギリ		18	12	9	1	40
カヤ	○	16	11	8	1	36
トウカエデ		11	9	11	2	33

表6のうちで、常緑樹は8種類、落葉樹は12種類である。表1で示したように、生徒が調査した公園等は、自然教育園、日比谷公園、小石川植物園、北の丸公園の4つの場所で、全調査地のうちの7割5分を占めているにもかかわらず、調べた樹木はかなり多岐に渡っていると思われる。以上の結果は、学校外、特に東京都内の公園での調査によるものである。これを本校の敷地内（東京都世田谷区下馬）の樹木調査結果（表7、表8）と対応させてみた。すると、出現頻度の高い樹木ベスト20のうち、タブノキとクヌギの2種類を除く、18種類が校内に生育していることがわかった。今回のレポートをまとめると、学校内の樹木についても詳しくなるという、当然予想されうることではあるが、新鮮な結果であった。

たまたま筆者は、平成16年度（平成16年4月1日～平成17年3月31日）は、学芸大附属高校大泉校舎に勤務することになり、大泉地区の樹木を調べる機会に恵まれた。そこで、表6の結果を、その樹木調査結果（表9、表10）と対照させてみたところ、タブノキとトウカエデの2種類を除く、18種類が校内に生育していることがわかった。やはりここでも、野外での樹木調べが校

内の観察と結びつくことがわかる。

#### [4] 考察

関東地方の自然植生は、その地理的な位置から照葉樹林帯に属する植物が多いと思われる。一方、東京近辺の公園等の高木の中には、外国産の樹木が植えられたものも多い。例えば、ヒマラヤスギ、メタセコイア、アメリカスズカケノキなどである。このような、外国名を冠した樹木以外で高木という限定をつけて公園等を調べると、今回の集計でわかったように、高木の中に関東地方の土地本来の樹木が多数含まれることがわかる。当然のことであるが、ある土地にはその自然環境に適した樹木が生育している。公園内といえども、東京近辺でみられる樹木の種類は、このことを反映しており、土地に合った樹木が多くみられる。

個々の生徒が、ある公園内の樹木調べを行うだけでは、広い見方に結びつけるのは難しい。しかし、多少異なる地域でも調べていき、それらの結果を丹念に集計していくことにより、高い頻度で出現する樹木を10種類程度は取り出すことが可能である。うまくいけばそれらの中に、相当程度は地域の代表的な樹木名、教科書に出てくるような極相林の樹種、がいくつか現れてこよう。

このような結果は、書物での知見からも予想されることではあるが、今回のような簡単なレポートを作成し、その結果をある程度まとめていだけで、その地域に生育している樹木の傾向を自分達で調べることができるのは、簡便ではあるが実用的な方法であるといえよう。

高校での生物教育という観点から見ると、教科書等に出てくる樹木のうち、多くの種類が学校やその近くでみられることを自ら発見することは、授業の展開の上からも有益な点が多いということになる。

#### [5] おわりに

本稿のきっかけは、よく調べてある見事なレポートが数多く提出されるのを見て、これを集計したら授業につかえるのではないかと考えたことにあった。教科研究のアイデアは、常に生徒達の活動の中にこそあると思う。

今後は、このような方法が他の地域でもうまく機能するのかどうか、針葉樹林帯、夏緑樹林帯、亜熱帯樹林帯等の地域でも実践し、さらに方法の改善を行っていきたい。生徒達には、単なる樹木名調べを通じて、自然そのものや生態系への理解を深め、「自然の中での人間」といった広い見方を身につけさせることにつながることを期待したい。

身近な樹木調べから植物群系を考える

表7 学芸大附属高校の樹木(1) (\*は多くみられた樹木ベスト20)

植物名	科	生育場所	花期	樹木の特徴	樹高
アオキ	ミズキ科	中庭、校舎周囲	3-4月	果実は赤で長径2cm	低木
アオギリ	アオギリ科	柔道場横東側	6-7月	7-8mm 可食	高木
アカマツ	マツ科	講堂入り口右側	4月	マツボックリ	高木
アカメガシワ	トウダイグサ科	随所 中庭	6-7月	かなり随所	亜高木
アジサイ	ユキノシタ科	中庭	6月		低木
アツバキミガヨランリュウゼツラン科		地学室横	8-10月, 白色花		低木
アメリカスズカケノキスズカケノキ科		大グラウンド 放送大側	4-5月	集合果はボール状	高木
イイギリ*	イイギリ科	講堂北側、講堂西側	4~5月	8~10ミリ	高木
イチヨウ*	イチヨウ科	校舎南、東、プール横、グラウンド西	4月 雌雄異株	異臭のある果実	高木
イヌビワ	クワ科	7-9月	8-10月果実は紅色(食用) 雌雄異株	果実は1cm	低木
イロハモミジ*	カエデ科	講堂・第1体育館の間			高木
ウメ	バラ科	中庭東側	2月	大きい果実	亜高木
エノキ*	ニレ科	校舎南側	4-5月 雌雄同株	10月赤紫果実7mm	高木
エンジュ	マメ科	工芸・放送大	7月	数珠型まめ状果実	高木
カイドウ	バラ科	工芸室裏	4月始め		亜高木
カキ	カキノキ科	中庭東側、講堂入口	8月末	2.5cm	高木
カツラ	カツラ科	講堂→柔道場間	3月末-4月		高木
カヤ*	イチイ科	自転車置場、講堂裏	4-5月 (雌雄異株)	茶色 2.5-3cm	高木
キヅタ	ウコギ科	女子更衣室横	10-11月	6-7mm 翌春黒熟	つる性 常緑低木
キョウチクトウ	キョウチクトウ科	工芸室と講堂の間	7-8月		亜高木
キンモクセイ	モクセイ科	柔道場横 放送大側	9-10月 雌雄異株 日本産は雄株	実はない	亜高木
クスノキ*	クスノキ科	講堂入り口 保健室横	5-6月	黒色	高木
クロマツ*	マツ科	講堂正面両側	4-5月	マツボックリ	高木
クワ	クワ科	大グラウンド放送大側	5月中旬	集合果食用	亜高木
グッケイジュ	クスノキ科	講堂正面	4月末		亜高木
ケヤキ*	ケヤキ科	正門横、中庭、校舎南側 弓道場	4-5月		高木
コナラ*	ブナ科	弓道場北側	5月	堅果	高木
コブシ*	モクレン科	講堂正面放送大側	3月中下旬	ぶどう房状果、種子1cm	亜高木
サイカチ	マメ科	北門横、工芸室放送大側	5-6月 3-4mm 房状	扁平さや状果実種子2cm	高木
サカキ	ツバキ科	南側 バス通り沿い	6-7月		高木
ザクロ	ザクロ科	中庭東側	7月		亜高木
サザンカ	ツバキ科	中庭	10月-12月	濃茶色 1.5-2.0cm	亜高木
サンゴジュ	スイカズラ科	校舎周囲、工芸室横	6-7月	赤色	亜高木
シダレヤナギ	ヤナギ科	大グラウンドと講堂の間	3-4月始め		高木
シュロ	ヤシ科	校舎周囲	5月	8-10ミリ	高木
シラカシ*	ブナ科	中庭 校舎周囲	4-5月	堅果 1.2-1.5cm	高木
シロヤマブキ	バラ科	中庭	4-5月		低木
ジンチョウゲ	ジンチョウゲ科	工芸室横	3月始め-3月末		低木
スギ	スギ科	西側旧官舎内	3~4月	球形、直径15~25ミリ	高木 30~40m
スダジイ*	ブナ科	校舎周囲	6月	堅果 1.5-2.0cm	高木
ソメイヨシノ*	バラ科	中庭	4月初旬	6-7mm	高木
ダイオウマツ	マツ科	地学室横	6月		高木
タイサンボク	モクレン科	正面入口 地学室横	6月		高木
チャノキ	ツバキ科	校舎周囲南側	11月末-12月	堅果、1.5cm	低木
ツバキ	ツバキ科	中庭横	1-3月		亜高木
トウカエデ*	カエデ科	中庭 校舎周囲	4-5月 黄色	5mm * 4mm	高木
ドウダンツツジ	ツツジ科	講堂正面両側	4月下旬から5月		低木

表8 学芸大附属高校の樹木(2)

植物名	科	生育場所	花期	樹木の特徴	樹高
トチノキ	トチノキ科	中庭講堂側	5月上旬	堅い果皮をもつ果実	高木
トベラ	トベラ科	中庭	10-11月	朱赤色, 粘着物質ある果実	低木
ナギイカダ	ユリ科	中庭東側	7-8月 白色		低木
ナンテン	メギ科	工芸室裏	6-7月		低木
ニセアカシア	マメ科	工芸室横出口前	5-6月		高木
ネズミモチ	モクセイ科	中庭、校舎周囲	6月	果実は目立ち0.7-1.0cm	亜高木
ネムノキ	マメ科	校舎南側物理室下	6月		高木
ハクウンボク	エゴノキ科	講堂-工芸室間	5-6月		亜高木
ハコネウツギ	スイカズラ科	焼却場前	5月		亜高木
ハゼノキ	ウルシ科	会議室横バス道路側	5-6月	7-8mm	亜高木
ヒイラギ	モクセイ科	中庭南側	10-11月		亜高木
ヒイラギナンテン	メギ科	中庭	10-11月	1-1.5cm 楕円黒紫色果実	低木
ヒサカキ	ツバキ科	女子更衣室前西側	3-4月	黒色果実 0.5cm	低木
ヒノキ*	ヒノキ科	講堂裏、地学室横	4月(目立たない)	1cm	高木
ヒマラヤスギ	マツ科	講堂裏、正面玄関	10-11月		高木
ビワ	バラ科	西側旧官舎内	初冬		高木
ホソバノトキワサンザシ (タチバナモドキ)	バラ科	校内の随所	5-6月 白-黄色の花		低木 1-2m
マテバシイ*	ブナ科	中庭角	6月	堅果 2.5-3.0cm 翌年熟す	高木
ミズキ*	ミズキ科	中庭 工芸室裏	5月		高木
ムクゲ	アオイ科	工芸室横講堂側	7-8月		亜高木
ムクノキ*	ニレ科	地学室横中庭側	5月	8-9mm 10月に黒熟果実	高木
ムクロジ	ムクロジ科	会議室横校舎周囲	6-7月	1.2-1.5cm	高木
モチノキ	モチノキ科	放送大側	4月末-5月	1cm前後 赤色	亜高木
モッコク	ツバキ科	講堂両側他	7月 黄白色 径1cmの花	赤紫色の果実	亜高木
ヤツデ	ウコギ科	中庭、校舎周囲	10-11月 白色径5mmの花	果実は4-5月に黒熟	低木
ヤブニッケイ	クスノキ科	オムニコート横	6月	灰黒色 1-1.5cm	高木
ヤマブキ	バラ科	中庭 正門脇	4月上中旬	5-6mm 黒色	低木

表9 学芸大附属高校大泉校舎の樹木(1) (\*は多くみられた樹木ベスト20)

植物名	科	生育場所	特徴	樹高
アオキ	ミズキ	実生、藪の中に複数個体	冬季に赤い果実、高さ2mほどで寒さに強い	低木
アオギリ	アオギリ	正門右、外周附属中学側	秋に2枚の心皮からなる果実	高木
アジサイ	ユキノシタ	校舎南、保健室前	2mほどの落葉低木、白~青色の花	低木
アカマツ	マツ	校舎南、および北側独身寮内	樹皮が赤い、山に多く高さ20mほどになる	高木
アカメガシワ	トウダイグサ	校舎とパイロット間、外周南側	晩春に赤い葉芽、10mほどになる	高木
イイギリ*	イイギリ	外周南東角、校舎南側	房状果実(6月末から秋に黄橙色)	高木
イチヨウ	イチヨウ	正門からの通路左側に数本	秋に臭いのある果実、2叉葉脈	高木
イロハモミジ	カエデ	附属小農園横、附属中北東角	秋に紅葉	高木
ウメ	バラ	外周東側	早春に花、初夏に果実	亜高木
エゴノキ	エゴノキ	パイロット通路右側、校舎南側	春に白い花、7月に多数の果実	高木
エノキ*	ニレ	外周南、東側随所大木あり	夏から秋に5ミリの果実、熟して食用	高木
カイズカイブキ	ヒノキ	テニスコート西側に列状植生	常緑、木の高さ6~7m	高木
カシワ	ブナ	正門樹木園内	カシワモチで有名、大きな葉	高木
カヤ*	イチイ	正門樹木園内	2センチ大の果実、葉の先は触ると痛い	高木
キンモクセイ	モクセイ	周回路附属中学側	強い香りの花、すべてオスの木で結実しない	亜高木
クスノキ*	クスノキ	校舎南ヤブ内、実生低木	本来は高木	低木

身近な樹木調べから植物群系を考える

表10 学芸大附属高校大泉校舎の樹木(2)

植物名	科	生育場所	特 徴	樹高
クスギ*	ブナ	校舎南側に複数高木	秋に2センチの果実	高木
クリ	ブナ	校舎南側に1本	イガのある果実	高木
クロマツ	マツ	校舎外周	樹皮が黒い	高木
クワ	クワ	パイロット入り口、外周	初夏に甘い果実	高木
ケヤキ*	ニレ	中学校校庭の周辺部	関東地方に多い、紅葉	高木
コナラ	ブナ	校舎南西角、中学校裏	2.ないし3センチのドングリ	高木
サザンカ	ツバキ	入口見本園内	常緑、晩秋から冬に開花	亜高木
サツキ	ツツジ	小学校畑横、校舎入り口	初夏に色鮮やかな花が咲く	低木
サワラ	ヒノキ	周回走路	針葉樹、葉先やや尖る	高木
サルスベリ	ミソハギ	正門右園内	幹は滑らか、夏に白い花をつける	亜高木
サンゴジュ	スイカズラ	周回走路	葉は濃い緑、初夏にサンゴ色の若葉	亜高木
サンショウ	ミカン	校舎南ヤブ内、実生	もむと独特の香り、複葉	低木
シュロ	ヤシ科	校舎東、南、西側その他	直線的な樹幹、ヤシのような葉	高木
シラカシ*	ブナ	独身寮南西、校舎西北	葉裏がやや白い、1.5センチほどのドングリ	高木
シンジュ	ニガキ	プール周囲、テニスコート周り	大型の羽状複葉、紅葉別名ニワウルシ	高木
スギ	スギ	正門右岩石園	葉はチクチクと痛い、トゲ状	高木
スズカケノキ	スズカケノキ	小学校入口通路	樹皮は落ち跡がだんだら、葉の分裂は深い	高木
スダジイ*	ブナ	周回走路パイロット校舎横	葉裏はやや赤橙色、最も美味な果実	高木
センダン	センダン	プール北西角	落葉、羽状複葉で枝先に互生	高木
ソメイヨシノ*	バラ	中学校周り	サクラといえばこれをさす	高木
タラノキ	ウコギ	校舎南側	葉や幹にトゲ、若芽は食用	低木
チャノキ	ツバキ	校舎南側	刈り込まれて痕跡的	低木
ツゲ	ツゲ	パイロット北側	日陰で目立たず	低木
ツバキ	ツバキ	正門校舎間登下校路	早春から赤い花をつける、葉は照り輝く	亜高木
ドウダンツツジ	ツツジ	正門校舎間登下校路	白い小型の花を多数つける	低木
ナギイカダ	ユリ	中学校校舎北	葉に見えるのは茎、先は尖って痛い	低木
ナンテン	メギ	中学校舎北東角、入口見本園	2m内外で常緑、冬に赤い果実	低木
ネズミモチ	モクセイ	正門校舎間登下校路	秋に多数のネズミ糞状の果実をつける	亜高木
ヒサカキ	ツバキ	正門校舎間登下校路	常緑、花の後で色のついた小型の果実	低木
ヒノキ*	ヒノキ	周回走路	幹はたてに裂ける、葉はうろこ状	亜高木
ビワ	バラ	校舎南パイロット側	葉の下面に淡褐色の毛を密生	高木
マサキ	ニシキギ	正門校舎間登下校路	濃い緑の常緑樹、果実は赤くて目立つ	低木
マテバシイ	ブナ	正門校舎間登下校路	秋早くに3センチ程度の果実、食用可	高木
ミズキ*	ミズキ	校舎南側	葉は水平に広がる、春に白い花をつける	高木
ムクノキ*	ニレ	校舎南側、周回	秋に黒紫色の1センチの果実は甘い	高木
モチノキ	モチノキ	正門校舎間登下校路	夏から秋に1センチほどの果実、赤くなる	高木
モッコク	ツバキ	正門校舎間登下校路	葉柄部分は赤みを帯びる、葉は小型	高木
ヤツデ	ウコギ	校舎南ヤブ内、実生	葉は大型で8から10に切れ込んでいる	低木

[参考文献]

浅羽 宏：身近な樹木観察から植生の特徴を理解する  
 遺伝、vol.58 (2) (2004)  
 辻井達一：日本の樹木、中公新書 1238 (1995)  
 東京樹木探検隊：図説東京樹木探検上・下  
 河出書房新社 (1995)

富成忠夫：野外ハンドブック 6,7 樹木 1,2  
 山と溪谷社 (1979)  
 林 弥栄：日本の樹木、山と溪谷社 (1989)  
 宮脇 昭：日本の植生、学習研究社 (1977)

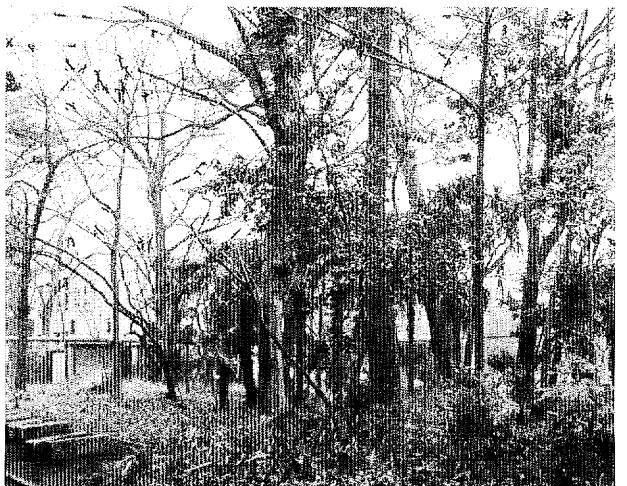
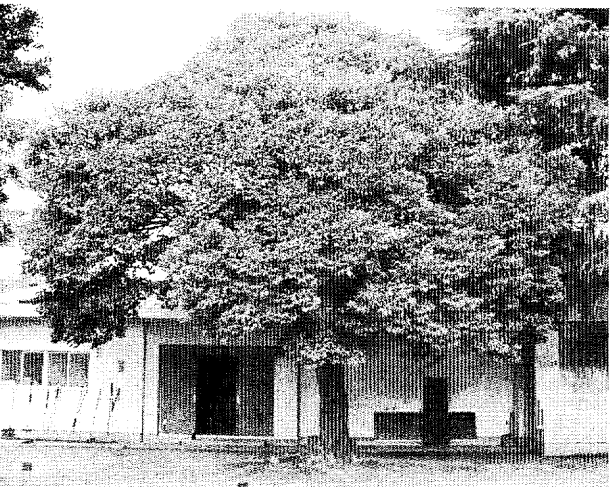
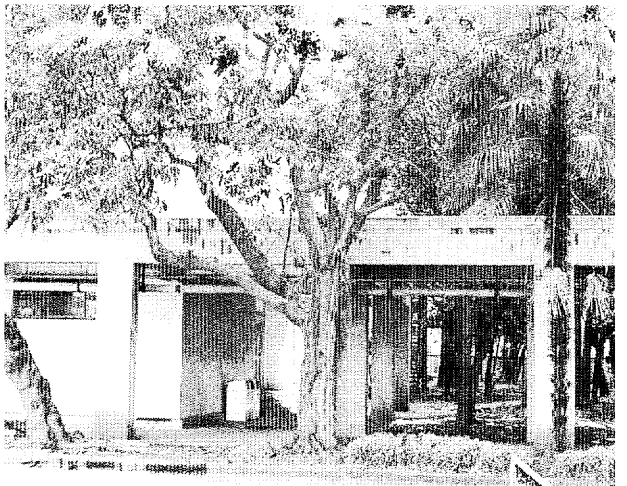
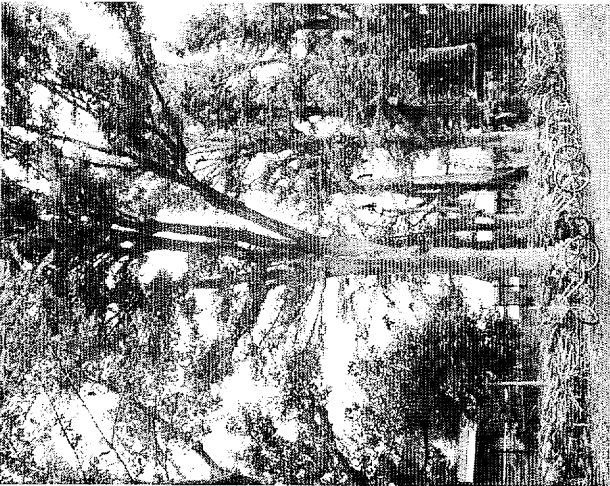


図1 本校内の樹木-クスノキ (10月中旬)  
図2 本校内の樹木-ケヤキ (10月中旬)  
図3 本校内の樹木-スダジイ (10月中旬)

図4 本校内の樹木-シラカシ (6月中旬)  
図5 本校内の樹木-マテバシイ (10月中旬)  
図6 大泉校舎内の樹木-クヌギ、コナラ林(3月上旬)